

散策の会

2023年11月 例会報告

秋川溪谷

11月28日（火） 快晴

- ★ 4年前に同じコースを歩いたが、その日は小雨の降るとても寒い日であった。しかも台風19号の直後だったので、道や河原は倒木などがあって歩きにくかった。今回は快晴、無風、しかも気温が20℃を越える10月並みの暑さで、上着を脱ぎ、セーターも脱ぎ、シャツは腕まくりをして歩くほどであった。
- ★ 常連の人に体調不良の人があり、参加者は7名とやや少なめであった。田無駅を8時47分に出発し、武蔵五日市駅には予定通り9時41分に到着した。バスの発車時間まで25分ほどの間があったが、自然豊かな所に来ると穏やかな気分になのか、暖かい陽射しを浴びながらゆっくりとバスが来るのを待った。バスに乗ると僅か10分ほどで十里木バス停に着いた。
- ★ バス停から100mほど歩き、街道から分かれて右手に緩やかに下る道を歩いて行くと、秋川が見えてくる。秋川に架かる長さ96mの吊り橋・石舟橋を渡ると「秋川溪谷瀬音の湯」がある。石舟橋からの眺めが素晴らしい。兩岸の木々は赤や黄色に輝き、水は青々として渦を巻いて白い岩肌には砕け散っている。橋を渡って山道を少し登ると開けた場所に出た。ここに宿泊施設、食事処、売店、足湯などがある。この日は温泉施設が故障で入浴できなかった。



秋川溪谷の紅葉



秋川の溪流

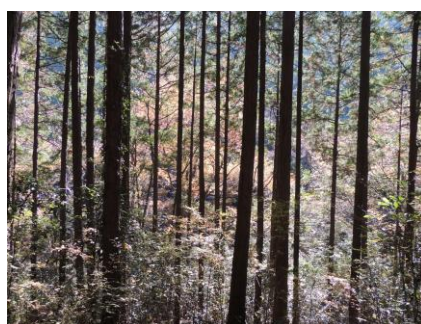


瀬音の湯

- ★ 瀬音の湯から石舟橋の反対側へ下ると長岳橋という小さな橋があり、大岳鍾乳洞へ向かう道に出る。長岳橋の下の河原がキャンプ場になっていて、バンガローが建ち並んでいる。管理人室の前を通りかかると、若い女性が昨夜使った布団の整理をしている所であった。彼女によると、11月いっぱいまでキャンプシーズンは終わるとのことであった。



木漏れ日の林道



杉林越しにの紅葉



大きく向きを変える秋川

★ 落合橋の先で右折して林道に入る。バスの走る檜原街道は秋川の右岸を通っているが、この林道は左岸を通る道で、人も車もほとんど通らない静かな道である。杉林の間から紅葉した木々と秋川の流れを望むことが出来る。秋川が大きく湾曲するところで林道と分けれると間もなく星竹橋に着いた。40分ほどの気持ちのよい林道歩きであった。

★ 星竹橋の近くに立派な門構えの大きな古民家があり、老婦人が家の前の道路の落葉掃きをしていた。聞いてみると、ご主人はこの家の16代目の当主で、裏山全体の所有者であるという。山林の管理は東京都が行っているそうである。馬道氏の鑑定によれば、この門の戸は檜の一枚板であるという。大変立派な門である。



山林地主・黒木家の門

★ 星竹橋から急な坂を登り、バス通りを横断して更に登って行くと戸倉しろやまテラスという所に着いた。ここは1873年（明治6）に開校、10年前の2013年（平成25）に廃校となった旧戸倉小学校の校舎を利用した、体験、宿泊、飲食、展示の機能を持った滞在型の観光施設である。レストラン「食飲室」（職員室？）は地産食材を使ったメニューが給食プレートに乗って出てくるそうであるが、火曜日は定休日であった。この施設は山の中腹にあるので、大変眺めが良く、眼下には戸倉の家並みと秋川の流れ、遠くに目をやれば昭島、立川方面の街並みが見渡せる。

★ 建物の裏に廻ると大紅葉の木がある。高さは10mを越える大木で、全体が真っ赤に紅葉している様子は実に圧巻である。小学校が開校したときに植えられたものとするれば、樹齢150年にもなると思われる。



戸倉しろやまテラスの大紅葉

★ 戸倉しろやまテラスから坂を下って来ると、バス通りの手前に「小春日和」という蕎麦屋がある。30cm四方の小さな看板がなければ普通の民家で、蕎麦屋とは気が付かないで通り過ぎてしまいそうな店である。4年前に来たときも、この「小春日和」で食事をしたが、その時は雨が降っていたこともあり、他に客がなく貸切状態であった。その日、店の主人の友人というオヤジが、我々のためにわざわざ品川から応援にきて、対応してくれたが、大変愉快的なオヤジであった。今回は好天に恵まれたお陰でお客も多く、暑い日だったので、



そば屋「小春日和」

主人とオヤジは厨房で裸になって働いているとかで、顔を見せなかった。
香りのよい新そば、山盛りの天婦羅、粘りの強いとろろなどを賞味しながら、ゆっくり1時間半も蕎麦屋に滞在した。

- ★ 「小春日和」を後にして、バス通りを5分程歩くと沢戸橋がある。橋の先で秋川の河原に降りて岩瀬峡へゆく予定であったが、間違えて手前の道で河原へ降りたため、思いがけず急な山道を昇り降りする羽目になった。約30分も悪戦苦闘して、ようやく「秋川リバーティオ」というキャンプ場に出た。その後は乱れた呼吸を整えながら、長閑な田舎の道をのんびりと歩いた。
- ★ 蕎麦屋を出てから1時間ほどで広徳寺に到着した。広徳寺は室町時代の1373年（応安6）に創建されたと伝えられる臨済宗建長寺派の寺である。茅葺屋根の総門と山門「正眼閣」を抜けると、そこに2本の銀杏の大木がある。全体が真黄色に染まり、地面は黄金色の絨毯を敷いたようである。その美しさ、見事さに一同歓声を上げたあと、しばし声もなく銀杏を見上げていた。

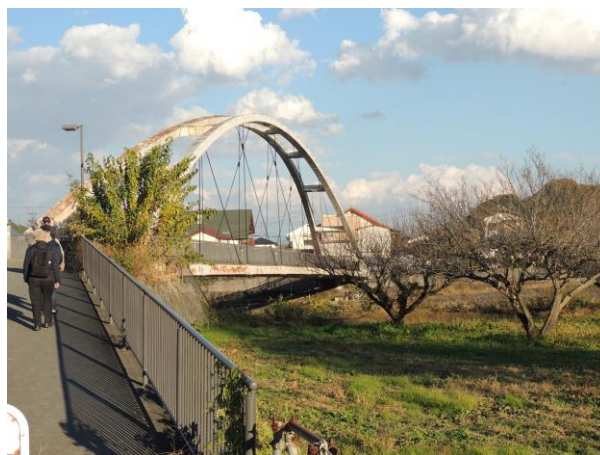


山門「正眼閣」



2本の大銀杏

- ★ 広徳寺をあとに、坂道を下って行くと小和田橋である。この辺になると川幅も広くなり、流れもおだやかになる。橋を渡って、川の左岸を進むとやがて「あゆみ橋」という歩行者専用の橋があり、橋を渡ったあたりから秋川橋かけての河原一帯が「秋川橋河川公園バーベキューランド」である。秋川橋を渡って階段を登れば五日市駅である。五日市駅到着は午後3時40分、4時6分発の電車に乗り、田無駅に着いたのは4時58分であった。



あゆみ橋



今回は2人の俳人の方から俳句を頂きました。

大紅葉 見上げる面々 朱に染まり

空も地も 黄金に染め 大銀杏

紅葉狩り 思わぬ坂で 老喘ぎ

金子正男

廃校の 丘に百年 大紅葉

冬麗や 代々山守 檜門

見下ろせる 湾処溜まりに 鴨遊ぶ

志賀 勉

参加者 馬道 哲、金子正男、小島恕雄、志賀 勉、
中村光毅、牧野昭夫、関口和子

以上7名

写真と文 小島恕雄